

荒川区民総幸福度（GAH） に関する区民アンケート調査から

● 性別・年代別の幸福実感度

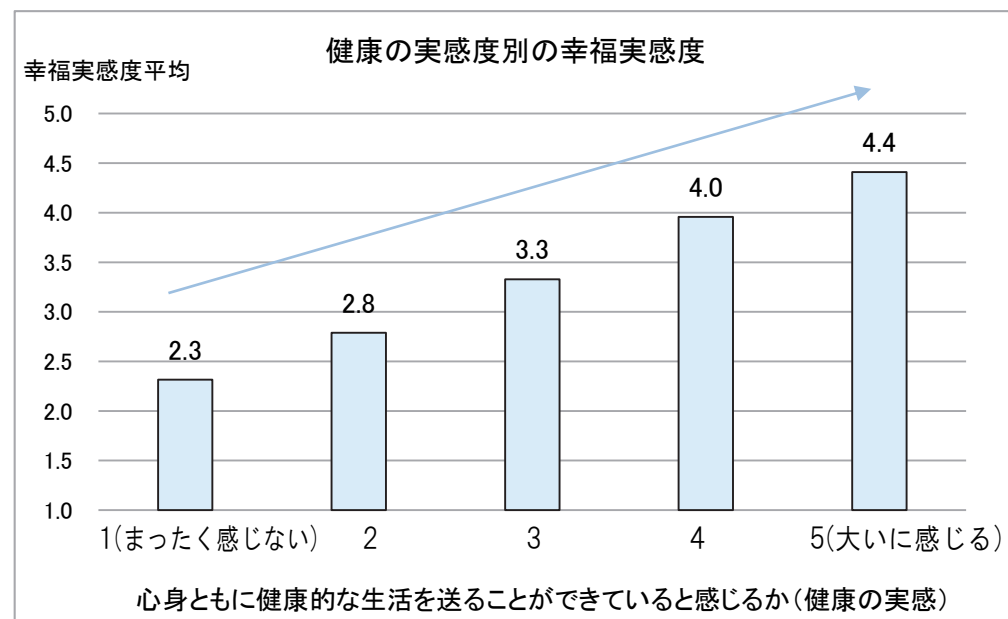
「あなたは幸せですか」（幸福実感度）の質問に対して、1から5までの5段階で評価してもらった結果



- ・どの年代においても、男性より女性の方が、幸福実感が高くなっています。
- ・男性も女性も30代の幸福実感度が一番高く、一方で20代男性の幸福実感度は低くなっています。

● 健康実感度と幸福実感度の関係

「心身ともに健康的な生活を送ることができていると感じるか」（健康の実感）の質問に対する回答別（1から5までの5段階）に、幸福実感度の平均を見ました。



- ・健康の実感度が高い人ほど、幸福実感度が高い(健康だと思っている人ほど幸福だと思っている)傾向にあります。
- ・健康はすべての基本であり、健康を実感しているかどうかは、幸福実感に大きく影響していると思われます。

編集発行 公益財団法人荒川区自治総合研究所
〒116-0002 東京都荒川区荒川 2-11-1
TEL : 03-3802-4861 FAX : 03-3802-2592
HP : <http://www.rilac.or.jp/> E-mail : info@rilac.or.jp

荒川区自治総合研究所（RILAC）は、区が抱える課題等について、多角的かつ中長期的な視点で調査研究を行い、区に政策提言等を行うことを目的とした機関です。

GAH NEWS RILAC No. 19

荒川区民総幸福度 GAH-Gross Arakawa Happiness

平成27年2月
公益財団法人
荒川区自治総合研究所

第4回 区民フォーラム特集号！

「みんなでつくる幸せのまち」に向けて

昨年12月8日にサンパール荒川にて、荒川区自治総合研究所 第4回区民フォーラムを開催し、町会・自治会長、関係団体の皆様、荒川区民総幸福度(GAH)推進リーダーをはじめ約150名の区民の皆様にご参加いただきました。

当日は、荒川区やGAHに関わりの深い先生方による基調講演とパネルディスカッションを行い、「幸せのまち」に向けて、荒川区の誇りでもある地域のつながりや絆、さらには日頃の熱心な地域活動がいかに重要であるか、そしてこのような地域の力をさらに高めていくためには今後何が必要なのか、区民の皆様と一緒に考えました。



▲基調講演の様子

▼西川区長によるあいさつ



▲パネルディスカッションの様子

▼会場の様子



★★ 基調講演とパネルディスカッションの詳細につきましては、中面をご覧ください ★★

基調講演

基調講演では、月尾嘉男東京大学名誉教授にご登壇いただきました。

月尾氏は、区が荒川区民総幸福度（GAH）の取り組みを始めるにあたり、「不幸な人を減らすことが重要ではないか」と提案をいただくなど、区政への GAH 導入のきっかけを作ってくださいました。

今回は「地域から実現する幸福・幸福社会への巨大転換」をテーマに、ボタン王国をはじめとした世界各地への訪問等、自身の経験を織り交ぜながら、世界はいま富の不公平な配分の問題を抱えていることや、真の幸福には経済の豊かさだけでなく心の豊かさが重要であることなどのお話をいただきました。

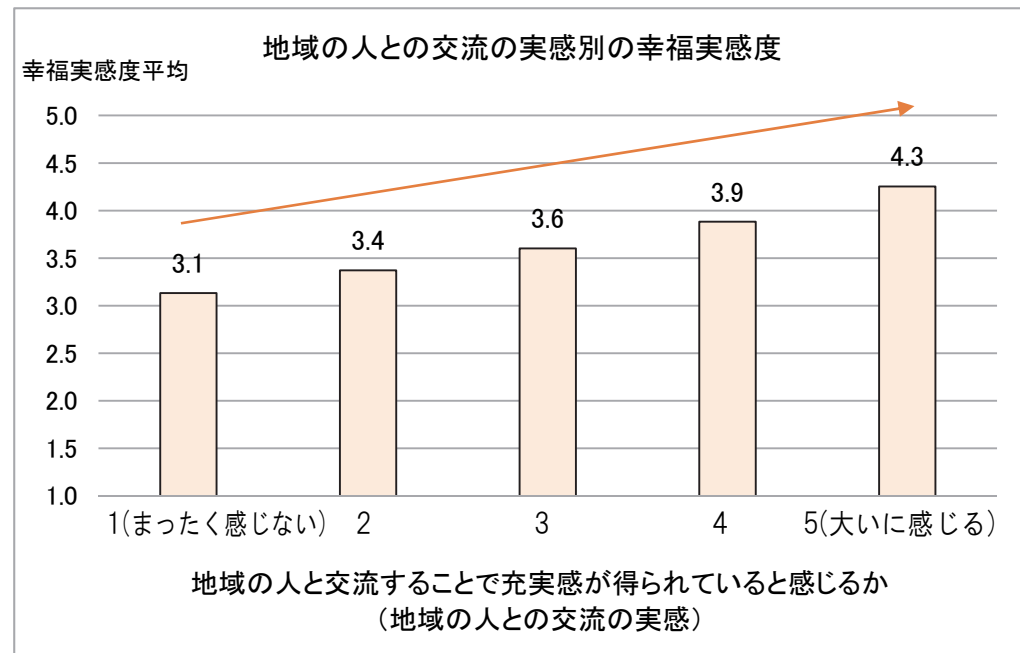


▲講演を行う月尾嘉男氏

地域とのつながりと幸福度の関係

荒川区が平成25年度に行った「荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査」では、地域とのつながりと幸福度との関係性が明らかになってきました。

地域とのつながりの1つの例として、「地域の人と交流することで充実感が得られていると感じるか」（地域の人との交流の実感）の質問に対する回答別（1から5までの5段階）に、幸福実感度の平均を見てみました。



- ・ 地域の人との交流の実感度が高い人ほど、幸福実感度が高い（地域の人と交流できていると思っている人ほど幸福だと思っている）傾向にあることがわかります。
- ・ 地域の人との交流やつながりが幸福実感向上に良い影響を与えていると言えます。

（当日配付資料より抜粋）

パネルディスカッション

パネルディスカッション「絆がつくる幸福な地域社会の実現に向けて」では、パネリスト、コーディネーターの皆様それぞれのお立場から、様々なご意見、議論がありました。

また、会場の皆様からも大変貴重なご意見をいただきました。

□ コーディネーター



学校法人聖学院
理事長・院長
阿久戸 光晴 氏

<総括>～みんなでつくる幸せのまちとは～

子どもや昼間区民等を含めた荒川区に関わりのある人々や団体が皆、地域に与えられた良さに感謝を持ち、地域へ貢献することを通じて、互いの絆や協力体制を深め、地域力を形成していく。このこと自体が、「幸せなまちをつくる」ことにつながっているのです。

□ パネリスト

～幸せについて再考を～



東京大学名誉教授
月尾 嘉男 氏

どんなこともすぐに見たり知ったりできる現在の情報社会においては、他と比較してしまうことでどこまでいっても満足せず不満を感じてしまいがちです。これは人間の根本的な問題ですが、この欲望の追求をうまく制御し、論語にいう「足るを知る」ことも幸福には重要だと思います。

～幸福は健康づくりから～



荒川区医師会会長
富田 崇敏 氏

健康は幸福の根幹です。かかりつけ医は、地域の担い手の一員として、患者の全人的サポートを使命に掲げており、医療の面から地域を支えています。

また、荒川区の歴史を学ぶことで、子ども達に郷土愛を持ってもらい将来も荒川区に住みたいと思ってもらうことも大事です。

～コミュニティ、地域の力の意義～



千葉大学教授
広井 良典 氏

地域から幸福を考えていくことはとても大事です。荒川区は町会や商店街などコミュニティが活発であり、これは大きな強みです。人と人とのつながりは、数字に表すのは難しいですが、実は社会の中でもものすごく意義を持っています、幸福にとっても関係が深いものなのです。

～区民の皆様の幸せを目指して～



特別区長会会長・
荒川区長
西川 太一郎 氏

幸せな地域社会を目指す中で、区民の皆様には、日頃より地域の見守りや声かけなど、地域力を発揮していただいております。地域のことに参加し貢献することで生きがいや幸せを感じる、区民の皆様がプライドを持って暮らしていける、こういったことこそが荒川区の幸福のベースです。

会場の皆様からの声

- ・色々教えていただいてありがとうございました。私にとって幸福は、まず家族が健康であることです。
- ・マンションなどでは、自治会等で連絡を取り合うなどがあまりないようです。そうすると、どここのおばあちゃんの具合が悪くなったといった地域の情報が伝わらず大変かなと思いました。
- ・GAHに大変興味を持っています。これを区の政策につなげていくには、区民アンケートの結果を地域別や年代別等で詳細に分析し、何を第一に行うかを考えていく必要があるのではないのでしょうか。
- ・GAHの観点から、障がい者のグループホームを増やすという話を聞きました。詳しく知りたいです。